

令和7年 **6** 月の大阪**森林**便り

6月の木の話 木質フローリングとダニ

- (1)  純木造中層ビル 安く建設 工期短縮、CO₂ も削減
- (2)  老いる街路樹 倒木リスク 被害、3年半で1700件
- (3)  集成材原料、欧州産4%高 対日4~6月

6月の木の話 木質フローリングとダニ

*人を刺すのがイエダニに代表されるツメダニ類ですが、媒介する害獣が減ったので被害は減少傾向です。

*人を刺さないチリダニ類のダニの糞や死骸が、アトピー性皮膚炎やアレルギー性ぜんそく、鼻炎といったアレルギー性疾患の原因物質（アレルゲン）になります。

*ダニには繁殖しやすい温度や湿度や餌（微生物の孢子や人のふけなど）のほかに、潜り込める陰や隙間を好むという性質があります。

*木質フローリングにはダニが潜り込めるような隙間が少ないので、ダニの住み家とならず繁殖しにくくなります。

*たとえ床が木質フローリングであっても、ダニの死骸や糞がハウスダストとなって床に落ちることもあるので注意が必要です。

（木材利用システム研究会 木力検定委員会 木力検定 木を学ぶ100問より抜粋引用）

(1) **純木造中層ビル 安く建設 工期短縮、CO₂ も削減**

住友林業、独自供給網で鉄筋コン並み

*住友林業は2028年にも純木造の中層ビル開発に乗り出します。

*4階建て程度のオフィスなど非住宅物件が対象。

*RC造（鉄筋コンクリート造）より工期を短くして建設費を同程度に抑えるほか、二酸化炭素（CO₂）排出量も削減。

*木材は樹木が成長する過程で吸収したCO₂を炭素として固定。

*木材を使うだけで排出量をさらに減らすことができます。

*国内の非住宅木造の工事費が、2030年度には2025年度予測比24%増の1兆1400億円。

*大林組は2022年に、横浜市で高さ約44Mの純木造ビルを完成。

- *三井不動産が 2028 年度に 2 棟目となる木造の賃貸オフィスビルを竣工。
 - *東京海上ホールディングスは東京丸の内で高さ約 100M の木造中心の本店ビルを 2028 年度に完成させる予定。
 - *欧米は建築物への環境規制が厳しく、中高層ビルの建設に木材が使われるケースが多くあります。
- (2025 年 5 月 3 日 日本経済新聞記事より抜粋・引用)

(2) 老いる街路樹 倒木リスク

被害、3 年半で 1700 件 ケヤキやサクラ、高度成長期に植樹

樹木見極め 人材欠かせず

- *公園や道路の樹木が倒れたり枝が落下したりする事故の人的・物的被害は、2021 年 4 月～2024 年 11 月の約 3 年半で計 1732 件。
 - *このうち人的被害は計 110 件。
 - *事故のあった樹木で多かったのがケヤキ（13%）やサクラ類（12%）。
 - *主な原因は「腐朽・病害」が 509 件で、「台風以外の強風」（435 件）や「台風」（162 件）の自然災害を上回りました。
 - *街路樹による緑化は景観の美化に加えて、都市の大気を浄化する作用もあります。
 - *1950～1970 年代に植樹された街路樹が半世紀以上を経て老木化。
 - *2018～2022 年は毎年平均で約 5200 本が倒れています。
 - *木の寿命はソメイヨシノで一般的に 50～60 年程度で老齢期を迎えるとされます。
 - *「樹木の定期点検や巡回を実施している」と回答した自治体は、公園樹木・街路樹ともに 4 割程度。
 - *1987 年に 371 万本あった全国の街路樹（高速道路会社管理分を除く高木）は、200 年に 8 割増の 679 万本。2022 年は 629 万本。
- (2025 年 5 月 14 日 日本経済新聞記事より抜粋・引用)



(3) 集成材原料、欧州産 4%高 対日 4～6 月

住宅建築コスト上げ 丸太の供給縮小が響く

*集成材の原料、ラミナ（ひき板）の主流品である欧州産の 4～6 月期の対日価格は、1～3 月期に比べ 4.2%高。2 四半期連続で上昇。

*2022 年 7～9 月期以来の高値。

*欧州ではラミナの原料となる丸太の調達価格が上昇。

*ロシア産丸太が入ってこなくなったうえ、環境規制で伐採量を増やすのが難しい事情があります。

*日本国内の木造の戸数や面積は減少しているものの、鉄骨鉄筋コンクリート造や鉄筋コンクリート造などの非木造の建物比べれば落ち込みは少なくなっています。

*鉄鋼やコンクリートの価格上昇の影響に比べれば、木材を使う工法のほうがまだコストを抑えられると考える住宅業界などから一定の集成材の需要があります。

（2025 年 5 月 24 日 日本経済新聞記事より抜粋・引用）

